



【現代社会の特質を考える】

はじめに

現代社会における日本の役割、これからの企業経営について考えるにあたり、「グローバル化」、「科学技術の発達」そして「人工化」という3つの時代の大きな流れを捉えておく必要があると思う。この要素は、日本だけではなく、世界的な環境変化といえ、世界の中における日本の企業経営のあり方を見る時に適していると思う。

以上の要素から、今号では特に「世界のひとつ化」「産業の社会運営への責任拡大」という切り口から考えたいと思う。

1) 世界のひとつ化

前号でも述べたが、現代の特質の一つに「世界のひとつ化」がある。科学技術の発達により、人・物の世界的な移動は、技術的にも経済的にも日常化しつつある。また、情報伝達技術や産業の発達で、日本社会は世界に向けて拡散し、逆に世界からさまざまな文化や情報が押し寄せてくる。

いまや世界中どこに居ても同じ衣食住になりつつあり、地域社会の文化が近代化（現代化）という名のもとに無くなりつつある。特に現代は、まさにあらゆる分野で（アングロサクソンの）グローバル・スタンダードによる統一化の流れの中にあり、この文章を読まれている間にも着々と「世界のひとつ化」は進行中である。

「世界のひとつ化」現象については、中堅中小企業といえどもこれからはビジネスのなかで、考えておかなければならないと思う。たとえ、ビジネスが直接的には国内だけの、極端に言えばある地域

社会というごく狭い範囲で行われていても、間接的には世界の市場を相手にしていたり、海外から仕入れをするという環境の中に置かれている。企業経営のルールや方式もまた世界から影響を受けている。

すなわち、日本の産業活動は今や世界的でなければ存続できないとあって良い。例えば、レストランで使っているものは、海外から輸入されているものが圧倒的に多く、まず国産と言えるものは、「水」くらいとあってよい。漬物でさえアメリカでつくって日本へ持ち込む時代である。このような世の中では、海外と日本を分けて考える事自体が難しくなっている。

ビジネスをする時に、その大小に関わらず、我々は、常に世界の中で事業をしていることを頭の中におかねばならない。自分のしている事業だけは日本独特の社会でしか成り立たないなどという考え方は間違っている。そのような考え方では、もはや企業経営そのものが成立しない時代である。



香川で勉強会を行っているメンバーが、米国に研修に行き、JETROのサンフランシスコセンターの人々とディスカッションを行った。このときの経験は、今から世界的に始まるアメリカンウェーブとの関わりで、現代のものの見方や考え方について考える際に参考になるように思う。

(1) 我々が相手にするアメリカ人は 確固たる自らのライフプランを持っている

彼らは、自らの人生設計(BSOというライフプラン)を立て、「その達成の為に今自分は何をするべきか」を常に考えて考働している。特にシリコンバレーには、その様な人々が集まっている。その為、全体的に意識レベルが高い人が多いという。

アメリカのベンチャー企業に勤める人は、「現在勤めている企業で中核になりたい」と考える人はほとんどいない。また、その企業で一生勤めるといよりも、「現在自分が必要とされている企業で働きたい」という想いが強い。

(2) ビジネスや勤め方が根底から異なる

シリコンバレーは一つの企業のように機能している。日本の企業の人事異動と同じように、シリコンバレー内では、ジョブホッピング(転職)が頻繁に行われている。シリコンバレー内のA社にいた技術者が、3年後には同じシリコンバレー内のB社で働いているという例は少なくない。

また、シリコンバレー内でアウトソーシングを専門に行っている企業の存在がある。例えば、経理ばかり行っている企業があり、その企業がシリコンバレー内の複数企業の経理を担当しているという具合である。いわば「シリコンバレー社の経理部」の役割を果たしている。

このような仕組みによって、想いとアイデアさえあれば少人数でも起業できる環境にあり、そこで切磋琢磨することにより、地域全体の意識を高めている。

シリコンバレーのような事例でも見られるように、米国には自らの存在性を追求する生き方を行っている人々がたくさんいる。このようなものの考え方(アメリカンウェーブ)は、ものすごく速いスピードでこれから世界に広がっていくだろう。

(3) 世界標準で物事を考えている

日本で起業をする場合、まず地元で知られるようになって、それから範囲を徐々に広げていくという考え方が多いように思う。このような考え方は、世界的視野で見れば少数派であるといってもよいのではないだろうか。イスラエルの企業は今急速に伸びているが、起業時から世界を市場として捉えているという背景がある。彼らが自国の市場だけを見ていたら、現在見られるような成長は無い。

世界には、このようなものの考え方をしている人々がいる。これから、日本が世界を相手にビジネスをする事を考えた時にどのような対応をするべきだろうか。

2) 産業の社会運営への責任拡大

当事者が好むと好まざるとに関わらず、これからの社会運営のあり方に最も大きな影響を及ぼすのは産業活動である。行政や政治が時代の流れを変えたとしても、「世界のひとつ化」によって世界的調整に時間を費やし、所詮は後手後手になっていかなるを得ない。

これからは、企業と市民が社会の主役になっていくとBSOでは仮説している。企業は産業活動を営む中で、市民は市民サークルの活動を通してそれぞれの役割を果たし、政治や官僚機構は、それらの動きの調整機能として存在するようになっていくと思う。

今まで、政治や官僚機構に主導されていた社会は、これからは産業界中心に変わっていく。我々は産業活動に携わる人間として、社会運営において重要な役割を果たす立場にあることの自覚と役割遂行の責任を果たさねばならない。

(1) 市民参画自治への挑戦

～「私設大阪府」の構想

我々は、「私設大阪府」(サーカス大阪)と題し、企業(法人と言う市民)や市民サークルの概要や活動状況などをホームページに搭載し、インターネット上に一つの社会を作る事に挑戦している。

企業間、サークル間、さらには企業と市民との「交流」や「意見の集約」、「他地域や官公庁との交流や電子行政サービスの受益」など、いわゆるインターネット上でリアリティな社会的つながりと仕組みをつくり、社会生活を営みたいと考える。

その為に、「情報開示」「対話」「協働」がベースになると仮説し、「自分の事を相手に知ってもらおう」「関係者と対話する」そして、「お互いに役割分担をして責任を果たす」という3つを中心に市民参画自治を考えようとしている。

私設大阪府のコンテンツには、例えば、「教育」「街づくり」「大阪人」「経済」というテーマで市民発言の場を設けたり、それぞれのコメンテーターを招き、これからの市民参画自治に必要な情報をネット上で集約したり、発信する事によって、社会生活により興味を持ち、自らが運営に参画する仕組みを作る。また、大阪商工会議所のビジネスモールと提携して、企業検索がホームページ上から出来る仕組みを作り、B to B、B to Cに挑戦する。また、「おいしいたこ焼き屋」「エエ病院エエ先生」などという大阪府民の生活に密着したアンケー

トなども行い、多くの大阪府民の参加を促すという仕掛けを考えている。

この企画への挑戦は、これからの時代の流れに適応した社会生活（ネット上における情報生活）にとって、大変意味のあることだと我々は自負している。現在は、大阪商工会議所西山サロンのメンバーを中心として行っているが、この輪を「大阪府」だけでなく、日本中、世界中に広げていきたいと思っている。

トップページのコピー

(2)「地方の時代」の草の根産業革新への挑戦

高松コンテンツ村構想 その後

前号の協働通信で紹介させていただいた、C21（高松の異業種のリーディング企業が出資した共同社員教育会社）のバックアップによる学生（若者）の人材育成の場「コンテンツ村」も新しい社会づくりの実験である。今から「コンテンツ村」のその後について触れたいと思う。

彼らは、多くの人々のバックアップと自己研鑽により、社会の役に立つ為にさまざまな事に挑戦している。その挑戦についての現状報告によりこれからの時代を模索する「コンテンツ村」の活動を少しでも考えていただければと思う。

これからの時代を感じさせる「ウェブ上における意見交換」

彼らは、「コンテンツ村」（高松市内のあるビルの1室をこう呼んでいる）に集まりディスカッションするだけでなく、掲示板やチャットによって自分の好きな時間にウェブ上で意見交換を行っている。掲示板が、意見交換の場、交流の場として現代社会から求められている事をBSOは彼らの活動を通して知ることになった。

それ以来、BSOが関係する企業、研究会において急速に掲示板が普及し、それぞれの機関で有効に活用され始めている。また、各研究会においての出欠確認が同掲示板で行えるシステムを開発するなど若者の立場で、「IT技術を通じた仕事の効率性」を世の中に提案している。

サイバーマーケティングへの挑戦

彼らは、ホームページの作成受注を行っている。ホームページを開いた時に「AIDMAの法則」で言うA（Attention）の意味合いを込めてFLASH（テレビを見るように動きのあるページを作るソフトウェア）を使ったホームページの作成に挑戦している。既に数社からの依頼があり、少しずつではあるが事業として成り立つようになってきている。

その他、「WEBツールによるBtoBのお手伝い」「企業が独歩ツールとして利用するCD-ROMの作成」などその他の事業も着々と進行中である。

留学プロジェクト

メンバーの1人を海外に留学させるプロジェクトを立ちあげた。「留学して学生は何を学んでいるか」「どのような環境下で暮らしているか」という情報を集め、「コンテンツ村が考える留学」を模索中である。

なお、留学を希望する学生は現在BSOが行っているいくつかの研修に参加し、意味ある留学にする為の手法やノウハウを意欲的に自分の中に取り入れている。

TCVネットプロジェクト

香川県に住む学生が作ったホームページを集めたポータルサイトを作り、ウェブ上で学生ネットワークを組織する。つまり地元に着した学生を集めることによって、意見交換や情報提供を積極的に行える仕組みづくりに挑戦している。これにより、より多くの若者に「社会へのお役立ち」が出来るような人間になってもらい、それによって地域が活性化する事を目指している。

若者の考えを伝えるミニコミ誌「BETTER」の発行

現代の若者が何を思い、何を考え、どのような行動をしているかを伝えたり、コンテンツ村の活動状況報告のためにコンテンツ村では、ミニコミ誌「BETTER」の発行を行っている。

就職活動支援プロジェクト構想

就職活動における悩みのある学生、何かに挑戦したいが何をして良いか分からない学生にむけて、学生自身が主催する「就職活動応援プロジェクト」を構想中である。

早朝勉強会

BSO代表である西山輝を講師に迎え、月に一度早朝勉強会を行い、物事の捉え方、原理原則等を学んでいる。彼らは、社会に役立つ為に午前6時30分に「コンテンツ村」に集合し、若者が創る未来に向けて活動している。

以上の2つの切り口から、「これから我々が何を考え、どのような事に挑戦しなければいけないか」について見てきた。以前とは桁違いに流れが早くなっている現代において、我々は、常に現代に生活している人々に求められる事業をしていかなければいけないと思う。